



浜家連 ニュース12月号

第280号

2023年12月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <https://hamakaren.jp/>

みんなねっと埼玉大会に参加して

副理事長 倉澤 政江

10月14日(土)・15日(日)、埼玉県大宮市で「第15回みんなねっと埼玉大会」が開催されました。今年のメインテーマは「家族まかせにしない社会に」です。

この紙面では2日目に参加した第2分科会「精神保健福祉手帳2級保持者まで福祉医療の対象に」について記します。

分科会話題提供者のトップバッターは精神障害者医療費助成を2級まで実現した奈良県精神障害者家族会連絡会の奥田和夫さんのお話でした。



・2012年9月に家族会が当事者、支援者に呼びかけ「福祉医療実現会議」を結成。(毎月1回定例会議を開催、具体的取組みを話し合う。)

家族会だけでは運動は出来ない。支援者の献身的な協力(ニュース発行、資料作成、日程調整等)があった。当事者、支援者、家族会と三者がタッグを組むことで相乗効果が生まれ、より力を発揮できた。

・2013年1月～福祉医療適用を求めて39市町村へのキャラバンを実施。

当事者が通所施設の支援者と共に市町村への要望に参加。真剣に熱い思いで医療費助成の必要性を訴える姿は、たとえまとまりのない話でも心に響く。精神障害者と接する機会の少ない行政職員や議員の方に与える影響は計り知れない。

・2013年7月 県が精神障害者の生活実態調査票を発送。

福祉医療実現には実態把握が必要。「実現会議」が主体となって精神科病院の協力も得て入院患者への聞き取りも含めアンケート調査を実施。県も独自の生活実態調査を行う。「実現会議」は定例会議を前に「実態調査・報告会」を行い、県も調査結果を発表。翌日、実施したアンケート調査をマスコミ各社が大きく報道した。

産経：「6割以上年収100万未満」朝日：「生活余裕なく医療費負担大」毎日：「精神障害者年収95万円」「6割別の病気抱え」 これまでの経過や奥田共同代表のコメントも掲載された。当時の奈良県議会議長は「行政に財源はある、どこに使うかの問題である」と言ってくれた。

・2014年2月 県が精神1級、2級への適用を発表。

手帳の1級=重度、2級=中度、3級=軽度は精神障害者の生活実態を示していない。重度心身障害者医療費助成制度ではなく、精神障害者医療費助成制度として運動してきた。福祉医療適用を求める運動は自治体の課題。当事者と共に実態を訴え、精神障害者も安心して治療を受けられるように運動を進めましょう、と締めくくられた。

他に茨城県連会長 兼清紀郎さんの話題提供がありました。

奈良県まで出向き資料をもらい分析をした。県に生活実態調査の依頼をしたが断られたので、独自に800名を対象に実態調査をした。一方で署名運動を行い2万1000筆の署名が集まった。県

議会議員対象にこれまで勉強会を2回実施して実情を理解してもらう努力をしている。連携を進めるため県連の理事として当事者会のメンバーを迎えた。当事者がおかれた実態をより家族会が知り誰にでも説明できることが大切と考えている。関係諸団体と協力し運動を展開したい。

浜家連もこれまで県や市に重度障害者医療費助成制度の要望をしてきましたが、手詰まり感があることは否めません。各政党懇談会でも他の障害との整合性がとれないと言われ、歯がゆい思いをしてきました。神奈川県は精神障害者の生活実態調査から政令都市である横浜市を外しました。市も独自の調査には後ろ向きです。

これから医療費助成制度の実現に向けてどの様に運動をしていくのか、多くのことを教えられた分科会でした。

第2回市民メンタルヘルス講座が開催されました

第2回市民メンタルヘルス講座感想（その1）

みなみ会 土屋克也

本日2023年10月28日の2023年度第2回市民メンタルヘルス講座の感想を記録します。今回レジメが配布されていないので、あくまでもDVDの録画を参考に講師のお話を要約し、筆者の感想を織り交ぜて感想文とさせていただきます。



始めに

お招きした講師は、現在 東京大学医学部附属病院 精神神経科教授の笠井 清登医師です。笠井教授は、東京大学医学部を卒業後同大学院を出られ医学博士号を取得されています。専門は、統合失調症などの臨床精神医学です。病院の精神神経科のホームページの挨拶文によれば、医学的症状の改善を目標としているが、それはそれでこれからの将来も重要で有り続ける。と、述べられ、それに付け加えて、一人一人の患者の症状や行動変化の背景にある価値観、心の傷、を理解して患者が希望する生活や人生が送れるようにサポートする視点が大事と話されています。

患者と家族にも参加型の診療に加えて医師等専門家も共同で担う（診療方法の手段について決断や決定を）姿勢を持ち、現在では、ピアスタッフも診療チームに加わっていると記載されています。

要するに既成概念にとらわれずに当事者、患者主体の医療を目指しているとの事です。

講演テーマである「統合失調症の現在地と高等学校での精神疾患教育」

講演の前半は統合失調症の現在地というテーマで講演がスタートしました。

講演者は高校生まで横浜に居住していて、自宅に精神科医の図書が存在していたと紹介され、大学では点字サークルに入部するなどして、高校生の時からボランティア活動をしていたと。

1995年に精神科医になる。

2011年東北大地震の際、現地に通う。

2012年夏苅郁子先生の本を勧められて感銘を受けた。

現在50歳となり、思春期の専門家として、専門家向けの教科書の執筆者となる。

ホームページ「[心の健康図鑑](#)」を通して情報発信している。

愛称「TICPOC」2018年に作った講演者の学習会の場でツールとして利用している。造語である。この造語：テクポクは、講演前半のまとめ部分で出てくる「デスアビリティ」＝社会的障害についての教育方法と捉えて下さい。

最初のTI：トラウマ informed care(インフォームド ケア)：トラウマを自覚した支援態度。児童期のトラウマ体験として、うつ病は定説となっている。また、統合失調症は50%ほどが、トラウマが原因であると調査で判明した。

また、医療現場において、ストレス質問の結果、再発した可能性が否定できない場合、トラウマがあり得ると解している。

次のCP：コ・プロダクション（共同創造）：共に創る社会と理解して、当事者、患者が中心になるための最良のデザインを施す原則論：当事者が円の中心にいて、また円の中心に有り続けて、当初（最初）から参加している。

審議会等でガス抜きのごとく出席をもとめるような対応でない。という意味。

最後のOC：organizational change：組織変革：従来の既成事実にとらわれずにと理解。変革をもたらす人や人達は少数派となる。

具体例として、法定雇用確保の為、東大病院精神科は、2015年から精神障害者（当事者）の雇用を開始した。最初は障害者の雇用について異論もあったが、今では普通の景色になりつつあり、ピアサポートとしての採用も叶っている。

大学及び病院当局と「言うは易く行うは難し」を体験した。また、医療の担い手（スタッフ）が偏見、差別を持たないようにと大学内部での変革を実施している。

研究対象の例として入院中の例が出された、入院中におけるストレスの影響で反って症状が悪化した例など研究テーマになりうる。一種のトラウマ例。

また障害者の社会との関わり合いに接する機会の大小などの研究が、より重要であると説明された後で、障害という日本語のワナに続いた。

講演前半のまとめに繋がります。

「障害という日本語のワナ」・・・多数派の存在が多様性を妨げている。ことだと説明されて、

障害：disorder：医学的な疾患が本来の意味

障害：disability：本来の障害の意味で社会的な障害（社会環境）を指し、当事者の障害を指すものでない。を理解したうえで、

障害者権利条約について述べるならば、日本国政府に対して正当な批判を展開している。と説明された。その具体的例は、国は、多様な教育の実践という言葉を使い、合理的な配慮をすることしつつ、身体障害、知的障害、精神障害など複数にまたがる障害者の場合において、一方的、画一的な方法しか取れていない。

複数の障害に当てはまる場所の確保が必要と。また、これは権利の侵害と説いて説明されました。なるほど障害者の居場所の「よさ」について、分かりやすい説明と思います。

(来月号に続く)

横浜市社会福祉協議会会長顕彰を受賞しました

「白梅会」が横浜市社会福祉協議会会長顕彰を受賞 白梅会会長 久保 乃理子

令和5年11月14日、秋晴れの穏やかな日に関内ホールに於いて、第43回横浜市社会福祉大会が開催されました。永年にわたり地域で福祉保健活動に携わってきた団体・個人の功績をたたえるとともに、永年社会福祉協議会会員として地域福祉活動に尽力した方々の表彰が行われました。



白梅会は横浜市港北区社会福祉協議会からの推薦で、社会福祉協議会会員として20年以上地域福祉の推進に貢献したとして、横浜市社会福祉協議会会長顕彰を授与されました。

表彰式典の前に、アトラクションとして横浜市消防音楽隊によるパフォーマンスがあり、秋の童謡メドレーなど心和む演奏と、消防に関するミニクイズがあり、会場は一気に温かい雰囲気になりました。

会場を見渡すと港北区内で共に精神保健福祉に携わり活動している、作業所の方、ボランティアの方も授与されていて、挨拶を交わしました。

あらためて、全ての人が住み慣れた地域社会で安心して暮らせる社会を実現するために、福祉の向上、発展に努めていきたいと思いました。

単会からのたより

高齢化に直面して、どうする！ あけぼの会 河野 正男

あけぼの会へ入会したのは2012年4月。会の創設が1982年であること
の他、月1回の定例会と家族のたまり場、会報「あけぼの」(月刊)、年1回
のバーベキュー大会と忘年会、そして不定期開催のバザー出店など、多彩な
行事があることを知る。



入会后、定例会に欠かさず出席していると、その勤勉さが認められたのか、役員にスカウトされ、2014年4月役員に就任。この時点での会員数は78名。2年後に会計係となり、6年担当後、会長に就任。現在の会員数は64名である。年により多少の出入りはあるが、会員数の減少傾向と高齢化は否めない。また、役員に就任後、退任者はいるが、新規の役員の就任者がいないので、役員の高齢化も進んでいる。

役員の高齢化は、多様な行事の運営を困難にする。このまま推移すれば、早晚、行事の縮小に加えて、浜家連をはじめとする外部団体との関係のあり方の見直しも考慮に入れなければならない状況にある。

皆さん方の家族会は、どういう状況にあるのでしょうか。

§ イベント情報 §

◆ 2023年度 第5回 市民メンタルヘルス講座 ◆

双極症を知ろう！

～病気の全体像と対処法 その人らしい人生のために～

日 時：2024年1月27日(土) 13:30～16:00

場 所：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

講 師：加藤 忠史氏 精神科医

順天堂大学医学部 精神医学講座 主任教授

和田 典子 さん(当事者体験談)

定員 300名(先着順)

Zoom参加：50名(事前申し込み必要)

申込み締め切り 1月19日(金)

★年金相談のコーナーもあります。



【編集後記】月日の流れは速く、今年のカレンダーも残り1枚となってしまいました。今年の浜家連は「歩子の会」から頂いた500万円の寄付で、クオリティーの高い「横浜市の精神保健福祉ガイド(第11版)」の発行、ホームページのリニューアルさらには講演会でのZoom導入などを行うことができました。皆様のご協力に感謝いたします。

気候の変化が激しい折、健康に気をつけてよい年をお迎えください。(事務局 中居)